

か、歩ませてもらって思つくとどう思います。今更比叡山へ登れと申しませんでどうぞお聴聞を重ねて下さい。註①親鸞聖人が自ら明かされた求道のプロセス『無量寿経』に説かれる第19願自力念仏往生の道に入り、さらにそこから第18願他力念仏の世界に入ったことをいつ



蔵本通支坊お齋スタッフの皆さん。上の方はこの日お休みだった橋詰さん（合成写真です）。また、写真と関係ありませんが、齋藤佳康さんと長岡良高さんが連日境内の剪定をしてくださいました。



長ノ木本坊ご満座(1月16日)本坊ご満座の様子。

最後に、長ノ木本坊の講師は、吉崎哲真先生でした。身近な話で、私たちの思いこみが間違っていることに気づかせて下さるお話でした。ご満座には、報恩講をお迎えるにあたっての心構えを、『報恩講式』によつて、

① 眞宗興行の徳

- ② 本願相心の徳
- ③ 滅後利益の徳

の三についてお話くださいました。ご満座の後は恒例の普なからのお齋。いつまで続くか分かりませんが、大切に伝えてゆきたいものです。



大根・芋・人参、一つが大さい昔ながらのお齋(とき)



和気あいあい。昆布は結んで煮てもう一度結び直す。とても手間な作業ですが楽しんで下さる皆さん。

安芸南組 報恩講仏の子の集い



Tブレイクの演奏。12月28日於蔵本通支坊。参加者約百名でした。

呉仏教婦女会報恩講

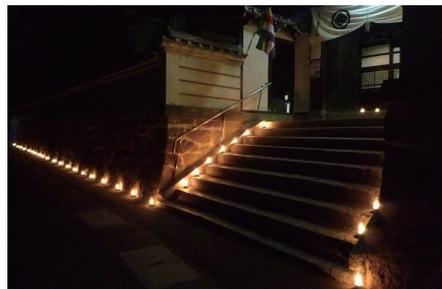


十二月二日、呉仏教婦女会でも報恩講。新住職がご法話。

ご正當報恩講

年が明けて二〇二二年、一月十六日は親鸞聖人七五〇回会の当たり日(ご正當)でした。

新任職は法要で、「残念なことに今日における念仏の衰退、社会の混乱は、み教えをお伝えくださった宗祖をはじめ祖師方に対して慚愧の念に堪えません。この大きな法要を節目として、ゼロ地点・原点に立ち返り、自信教人信、みづから信じ人を教へて信せしむる道の元年として、僧侶開徒一同、心新たに歩んでまいりたいと思ひます。」と表白しました。三津田支坊では竹田嘉円先生が「自分の頭で考える」というテーマでご法話。お善哉のお接待に「同舌鼓」ながのきほんぼう。長ノ木本坊は、自動法座。



大速夜(1月15日)ライトアップされた本堂。

一月十五日の大速夜は、『御伝鈔』(親鸞さまの伝記)拝読や白味噌仕立てのお雑煮お接待。嬉しいことに年々お参りが増えてきました。残口ウを再利用してのライトアップも恒例になりました。加えて御絵伝(親鸞さまの伝記 絵巻)の絵解きや御示談(仏法人生相談)、さらに今年には波佐間正吉先生のお寺のまねをして宝物展を開催、前々住職の代から少しずつ集め